－ ちょっと小金原 #27 －

小金原には歴史がある

松戸市立貝の花小学校 教頭

にしごおり　やすき
西郡 泰樹

小金原というとまず広重の有名な「冨士三十六景下総小金原」が思い浮かぶ。といっても、江戸時代「小金原」とは小金牧を示す場合も多く、現在の「小金原」とは違うようだ。小金牧の中の「中野牧」の端が現在の「小金原」になるとのこと。いずれにしても、江戸時代にはもう「小金原」という地名が存在したことになる。

私が勤務している貝の花小学校の「貝の花」とは縄文時代に存在した貝の花遺跡群より名づけられていると考えられる。

何が言いたいのかというと、「小金原」というのは歴史ある地名であるということと、縄文時代よりひとが生活していた地であったであろうことである。

自分は、数年前に社会科の学習に「まちづくり」の要素を含める取り組みを行ったことがある。その当時からすでに、地域の教育力が乏しくなっているという大きな課題があった。

しかしこの小金原には地域の教育力があるように思う。２００５年から続いている「おやじの会」はその顕著な姿の一つである。地域に教育力があることは、学校教育にとって何よりも心強い。

学校教育は現在、様々な課題を抱えている。しかし、子どもたちは学校だけでなく、地域で学ぶ。教師から学び、地域の人々から学ぶことで、成長していくのだと思う。

おやじの会がこれからも継続していくことは未来に大きな期待がもてる。おやじの会が地域を背負い、代替わりをしてバトンを繋いでいく。それが地域の絆であろう。おやじの会バンザイ！である。

おやじニュース50号(2013年2月号)より抜粋